

平成25年第4回「知事と一緒に生き生きトーク」の議事概要

- 1 テーマ:子どもを安心して生み育てる地域・社会づくり
- 2 日時:平成25年8月22日(木) 10:20~11:50
- 3 場所:認定こども園「就実こども園」
- 4 参加者:おかやま子育て応援宣言企業、おかやま子育てカレッジ等、子育てに関わっている方、子育て当事者8名

5 意見内容等

(1)子育て支援をされている方から、それぞれの取組みについて。

- ・大学では、学生が参加して行う「親子ふれあいタイム」をサポートしている。狙いとしては、広い視野に立って大学の特徴を資源として使うということ。
- ・子育て支援の拠点としては、色々なパターンがあるが、私は子育て支援センターを担当している。未就園の子どもさんをお母さんが24時間見続けることはとても大変で、お母さん方が自由に気軽にいつでも利用していただけるようなセンター運営を心がけている。
- ・女性が多い職場でもあり、働きやすい職場を目指し、今、取り組んでいるのが短時間正規職員制度や、男性の5日間の育児休業制度を導入しているが、当初の予想より、利用者も多く好評である。
- ・復職者が円滑に復帰できるよう情報提供や在宅講習を実施している。職場復帰率は100%で、不安がなくスムーズに復帰できたという声を聞くのでやりがいがある。

(2)子育てをされている方から、色々な思いについて。

- ・2年ほど前から、この就実のふれあいタイムを利用している。家ではできないような遊びや育児についての色々な相談ができることや、子ども同士のふれあいの場として、子どもの成長にも良い場所になっている。
- ・2児の母親ですが、主人の両親と同居しており、非常に助かっている。牛窓ルンビニ子育て支援センターへ定期的に通っていて、子どもの発育の度合いを調べたり、子どもにとってはいろいろな遊びが体験でき、とても助かっている。私は、両親に助けてもらっていても育児には大変な面があるが、両親の助けもないお母さん方は本当に大変だと思う。
- ・会社に育児休暇制度ができ、両親も共働きで、助けてもらえなかったこともあり、男性職員として初めて利用した。仕事と違い、時間の制約も受けないだろうと思っていたが、子どもが泣いても原因も分からず、本当に育児の大変さが分かった。
- ・未就学の子どもの親御さんがゆっくりできるような場所を目指して、親子カフェを始めた。それを始める前は、仕事に追われ、ほとんど育児には関われなかった。女性が大変だから男性も育児参加しないといけなしと言われるが、こんな楽しい育児を男性にも広めていきたい。子どもの笑顔があると元気になる。親子カフェの立ち上げには、行政の助成はなく、自分たちでできる範囲でやっている。

○知事の意見

- ・何をやるにも行政を頼りにすると、それが打ち切りになるとそこで終わる。自らの工夫でできることをやっていただくことは、行政に携わる者として、こんなにありがたいことはない。

(3)職場復帰のための支援策として、工夫していることは何か。

- ・復帰前に、復帰後どの職務に就くか上司と相談している。育児休暇後は短時間勤務制度や看護休暇制度を利用してもらい、制度の利用が当たり前になっている。
- ・実際に取得した職員の方から、その体験談を聞く場を設け、奥さんが体調が悪いときに家事をしてくれて本当に助かり、それでお互いの理解が深まったことなどの話が聞けた。それにより、取得する職員が増えると同時に、周りの職員の理解も深まり、育児休業の取りやすい環境が整った。

(4)子育てをしていて、どのような時に助かったとか困ったとか。

- ・子育て中は、日々これで良いのかと不安がつきまとう。「子育て支援センター」に来ると、同じ子育て中のお母さんとの情報交換や先生のアドバイスで不安解消になる。
- ・家庭では、2人の子どもに同じように関わってやれない。「親子ふれあいタイム」に来ると大学生や先生が下の子を見てくれている間に、上の子に関わることができ、子どもの満足度が上がる。
- ・今は、色々な情報が多く、直ぐに手に入るが、お母さんがそれを決断する際に悩む。昔は、情報が少ない分、地域の方々が色々アドバイスをしてくれたと思うが、今は地域のつながりが薄く、頼る人が少ない。
- ・男性は子育てのことが分かっていない方が多い、奥さんがしんどい時に寄りそうと絆が芽生える。
- ・都合良く、年度末まで育児休暇を取得できない。しかしながら年度の途中で保育所に入ることが難しく、非常に困る。

○知事の意見

- ・お母さん方は子育ての会などで積極的な活動をされているが、今日、参加いただいている男性の方ように育児に積極的なお父さんもいらっしゃるが、多くのお父さんが参加できていないのが現状で、そのようなお父さんに参加してもらうことが大事だ。
- ・統計上では、岡山県の場合、他県に比べて待機児童数は多くない。施設の受入事情で諦めて申請していない方が多いため、統計上に表れていないのかもしれない。
- ・基本的には、親御さんができればいいが、働きながら全ての育児を行うことは無理。私が素晴らしいと思っていることは、色々な育児に対する取組みが県内で行われており、評判が良い取組みは、徐々に広がりを見せている。働きながら子育てをしているお父さん、お母さんが本当に求めている取組みを是非知りたい。

(5)子育て支援として、どのような施策が必要か。

- ・家事と子育て、さらに仕事をしていると、できるだけ送迎のしやすい場所の保育所を希望するが、現実には遠くの保育所になる。せめて、送迎のしやすい希望の保育所に預けることができるようになればと思う。
- ・「親子カフェ」は、毎日、子どもさんを連れただお母さん方で満席になる。メディアでの取り上げもあり、企業などから視察にもよく来られる。しかしながら利益を追求するような経営にはなっていない。あくまでもお母さんたちの憩いの場、社会貢献として考えるならばやりがいがある。
- ・子育てに頑張っておられる方、支援をされている方などのお話を聞ける場を数多く提供することで、少しずつ子育てに対しての考え方、支援の輪や周りの理解が広がるのではないかな。
- ・子育て支援拠点を運営しているが、支援する施設同士のネットワークづくりや情報交換のできる場が是非とも必要だと思う。

○知事の意見

- ・新たな制度として「こども園」の制度ができ、これが完全であるとは言えないが、現時点での新たな支援策ではある。
- ・育児に対して、両親や地域のフォローがあり、それが当たり前の時代があった。その後、生活環境が大きく変わってきたが、支援制度などがそれに対応してきたとは思えない。
- ・「親子カフェ」については素晴らしいと感じたことが2点ある。経営者としての社会貢献の観点、もう一つは、自らが背伸びをしないで、できる範囲のことで育児支援を行っておられることに感心した。
- ・子育てをしたいのにできない、子どもが欲しいのに躊躇してしまう方に、安心して生み育てる環境をつくっていくことは社会全体として必要なことである。
- ・子育て支援は税金を使うに値するものだが、その使い方、使うことによる効果など、先を見据えた使い方を考えていきたい。